

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

事業名 森林空間施設整備促進事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林活用推進課 森林サービス産業支援係 電話番号：058-272-1111(内4345)

E-mail : c11513@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 23,000 千円 (前年度予算額： 25,000 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
前年度	25,000	0	0	0	0	0	25,000	0
要求額	23,000	0	0	0	0	0	23,000	0
決定額	23,000	0	0	0	0	0	23,000	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

平成24年度から、林業活動では採算が合わないため放置されてきた里山林や奥山林などを整備・活用・保全する目的で清流の国ぎふ森林・環境税を導入した。

令和3年度までは、里山林整備事業内のメニューとして市町村等が実施する施設の改修や整備に要する経費を助成。

令和4年度から、コロナ禍を契機に、都市型（室内）の活動が見直され、自然を生かした野外活動等が増加するなど、森林空間の利用が注目されており、遊歩道等の森林内の施設利用のニーズが高まっていることから、市町村が実施する施設の改修や整備に要する経費を助成。

(2) 事業内容

【補助対象事業及び補助上限単価】

○施設整備タイプ

補助上限単価：5,000千円／施設

○既存施設改修タイプ

補助上限単価：3,000千円／施設

(ただし、事業の実施は1回／施設限りとする)

【補助対象者】

市町村

(3) 県負担・補助率の考え方
清流の国ぎふ森林・環境基金対象事業

(4) 類似事業の有無
無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	23,000	森林空間施設整備促進事業費補助金
合計	23,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創生総合戦略
II-3 地域にあふれる魅力と活力づくり
(3) 農林畜水産業の活性化 - ③「100年先の森林づくり」の推進
- 第4期岐阜県森林づくり基本計画
第3 森林の新たな価値の創造と山村地域の振興
1 森林空間等を活用した森林サービス産業の育成による山村振興

(2) 国・他県の状況

- 平成15年度に高知県で森林環境税が導入されて以来、現在37府県で導入している。
- 令和元年度より、国の森林環境譲与税が導入された。

(3) 後年度の財政負担

第3期清流の国ぎふ森林・環境税の課税期間である令和8年度まで、税収に応じ事業を実施。

(4) 事業主体及びその妥当性

市町村等が実施する森林内の遊歩道や東屋などの施設整備や既存施設の改修に要する経費を支援する制度。

県単独補助金事業評価調書

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	森林空間施設整備促進事業費補助金
補助事業者（団体）	市町村 (理由) 森林空間の利用が注目されており広く支援をする必要があるため。
補助事業の概要	(目的) 森林空間を林業・木材産業だけでなく健康、観光、教育など多面的に活用し、森林の新たな価値を創造するため、歩道や休憩施設等の整備・改修を推進する。 (内容) 市町村が実施する森林内の遊歩道や東屋などの施設の整備や既存施設の改修を支援。
補助率・補助単価等	定額・定率・その他（例：人件費相当額） (内容) 補助対象経費の10/10以内の額 (理由) 森林の新たな価値を創造するためには不可欠な事業であるため
補助効果	事業実施箇所周辺の住民等にアンケート調査を行った結果、高い満足度が得られている。
終期の設定	終期 令和8年度 (理由) 清流の国ぎふ森林・環境基金事業のため

(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか 令和4年度から令和8年度までに40箇所において、施設整備又は既存施設改修を支援する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R3)	R4~5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①施設整備・改修実施箇所数	0	22	10	8	40	80%

補助金交付実績 (単位：千円)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	24,210	35,036	30,764	

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	単年度目標8箇所のところ、令和4年度は12箇所の施設整備、改修を行った。
	指標① 目標： <u>8</u> 実績： <u>12</u> 達成率： <u>150%</u>
令和5年度	単年度目標8箇所のところ、令和5年度は10箇所の施設整備、改修を行った。
	指標① 目標： <u>8</u> 実績： <u>10</u> 達成率： <u>125%</u>
令和6年度	単年度目標8箇所のところ、令和6年度は10箇所の施設整備、改修を行った。
	指標① 目標： <u>8</u> 実績： <u>10</u> 達成率： <u>125%</u>

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)	
3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	コロナ禍を契機に、自然を生かした野外活動等が増加するなど、森林空間の利用が注目されており、遊歩道等の森林内の施設利用のニーズが高まっている。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり（単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり） 2：期待どおりの成果あり（単年度目標100%達成） 1：期待どおりの成果が得られていない（単年度目標50～100%） 0：ほとんど成果が得られていない（単年度目標50%未満）	
(評価) 2	単年度目標8箇所のところ、令和5年度は10箇所の施設整備、改修を行った。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	令和3年度までは、里山林整備事業内のメニューで実施していたが、他のメニューに優先的に予算が配分され、すべての要望に対応できていなかったが事業化により、事業箇所数が増加した（R3:3箇所 R4:12箇所）

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項
予算額以上の要望があり、すべての要望に対応できていない。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
県民ニーズや第三者機関の提言等を踏まえ、補助要件の改正等が必要な場合は対応を行う。